

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4372400822
法人名	特定非営利活動法人 長寿会
事業所名	グループホーム ひまわり21岱明
訪問調査日	平成 21 年 2 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 1 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]  
作成日 平成21年 3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372400822		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21岱明		
所在地 (電話番号)	熊本県玉名市岱明町山下1037番地3 (電話) 0968-66-8777		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年4月1日

## 【情報提供票より】(21年1月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.27	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	水光熱費 110円/日 他電気代等
敷金	無		
保証金の有無 (人住一睡金含む)	60,000	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		850 円

### (4) 利用者の概要(1月17日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85.7 歳	最低	78 歳
		最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	淡河黒田医院 ふじさわ脳神経外科クリニック 中村歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境の中で、開設時より“笑顔と自信を大切に生き生きとした毎日を送っていただきたい”と職員が一体となって支援している。今年度はホーム長の交替によりこの一年新たな基盤作りへの取組みが入居者・家族・職員との関係が更に強固になり、介護計画の勉強会からスタートし入居者の“今”に即したプランに再作成したことが全職員が立案できるようになる等職員の自信へと繋げ、ケアの統一や意思の統一へととなり、入居者の主体的な生活や穏やかな日常生活となって表れている。職員は日々入居者に寄り添い、隣接の有料老人ホーム利用者との交流や系列のデイセンターで楽しむ等ホームの機能を活用しながら楽しく生活している。開設時よりの地域との交流促進が今では常態化し、地域の一人としての役目を十分に果たしており、法人全体が一体となった地域福祉へ関わりが今後も益々発展することが大いに期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己・外部評価を事業所としてや職員個々のケアを振り返る絶好の機会と捉え、昨年度の評価での指摘事項は全員で話しあい、運営推進会議で認知症ケア増進等ホームが還元できる事は行いたいとなげかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員に振り分けし、常勤職員でまとめたものである。離職に伴い新ホーム長として今回が初めての自己評価であり、職員の考え方やケアの違いを確認しホームとしてどのように理解し活用できるか教材にしていこう意向である。自己評価での課題について全員で検討し、安心して出入りできる玄関周りの工夫により日中はゲートを開け、季節の花を植える等家庭的な環境へと改善している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に開催している運営推進会議は行政・民生委員・近隣住民・家族代表の参加により、行事やホームの現状等が報告されている。外部評価報告書を全委員へ配布し、職員には議事録に目を通し共有化を図っている。参加委員からは行政への不満(介護保険)が多いとの事であり、今後更にホームのサービス向上につなげる運営推進会議とする意向である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月利用料金持参時暮らしぶりや健康状態を報告したり、年4回発行の法人機関紙により情報を発信している。また、新たにホーム独自にホーム便り“ひまわり21”を発行し、急変時には電話連絡により家族の不安解消に努めている。年1回の家族会や家族の訪問時意見や要望を徴集しており、家族からの意見等改善できる事は即時取り組み、家族へも対応方法を説明しており、家族の意見をサービス向上に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会への参加や公民館活動へ地域住民と一緒に参加したり、職員もボランティアと活動している。回覧板や市政便りの配布当番をする等地域の一人として活動し、近隣住民との関係も構築している。今後も地域の住民が気軽に来訪しやすいうこと無機質感を払拭する必要があるとの職員の意見から玄関周りに季節の花を植え、手作りのウエルカムボードを掲げており、益々地域住民との交流や地域住民の来訪が増えることが期待できる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“尊厳と権利の保障 自己研鑽とケアの質の向上 安全な住環境の3項目と住みなれた地域で最後まで安心して暮らせる地域福祉の整備に努めること”の4項目の法人理念を掲げている。	○	住み慣れた地域で、入居者の主体的な個々にあった介護サービスに努めることが役割であるという代表の思いに全職員が一丸となり取組んでいる。地域と連携を図りながら地域の福祉向上に取組まれており、取り組みの姿勢等ホーム独自に掲げることが検討いただきたい。
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に法人理念を掲げ意識付けとしている。理念に基づき全職員が年間目標をたて実現に真摯に取り組む、ホーム長は理念に基づいたケアを日々考えながらケアに当たることや事例等通して指導している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への参加したり公民館活動へ地域住民と一緒に参加し、職員もボランティアと活動している。回覧板や市政便りの配布当番をする等地域の一員として活動し、町の広報誌より行事等をリサーチし地域の生活拡充を図っている。近隣住民との関係も構築し野菜の差し入れやもの干し竿・七夕の笹だけをいただいたり、門松も地域の方から竹をいただき手作りしている。今後も地域の住民が気軽に来訪しやすいようにと無機質感を払拭するものが必要ではとの職員の意見から玄関周りに季節の花を植え、手作りのウェルカムボードを掲げており、益々地域住民との交流や地域住民の来訪が増えることが期待できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用	自己・外部評価を事業所としてや職員個々のケアを振り		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	返る絶好の機会と捉えている。自己評価は全職員に振り分けし、常勤職員でまとめたものである。離職に伴い新ホーム長として今回が初めての自己評価であったが職員の考え方やケアの違いを確認し、考えさせられるものがあつたとのことであり、ホームとしてどのように理解し活用できるか教材にしていく意向である。自己評価での課題について全員で検討し、安心して出入りできる玄関周りの工夫により日中はゲートを開け、季節の花を植える等家庭的な環境へと改善している。昨年度の評価での指摘事項は全員で話しあい、運営推進会議で認知症ケア増進等ホームが還元できる事は行いたいとなげかけている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している運営推進会議は行政・民生委員・近隣住民・家族代表の参加により、行事やホームの現状等が報告されている。外部評価報告書を全委員へ配布し、職員には議事録に目を通し共有化を図っている。参加委員からは行政への不満(介護保険)が多いとの事であり、今後更にホームのサービス向上につながる運営推進会議とする意向である。運営推進会議委員がホームの行事へボランティアとして参加されたり、系列のデイサービスを利用しフルーツ・ピアノコンサートを運営推進会議とて地域住民との交流の一環としている。	○	定例化した運営推進会議を更にサービス向上につなげるための会議にしたいと積極的な姿勢が窺われた。テーマを事前に案内する等課題を投げかけることで委員も早めに自分の意見を考えて参加できるのではないかと思われる。検討いただきたい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通して行政との関係が密なものになっており、法改正によりスプリンクラーの設置に向け相談し担当者から情報を得たり、ホームも空き状態等の情報を発信する等連携を図っている。	○	運営推進会議の中で地域向けに認知症ケア増進の研修等ホームが還元できる事は行いたいとの申し出がされており、行政とのタイアップ等も検討いただきたい。

#### 4. 理念を実践するための体制

7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料金を持参してもらい、暮らしぶりや健康状態を報告したり、年4回発行の法人機関紙により情報を発信している。また、新たにホーム独自にホーム便り“ひまわり21”を発行し、全職員が新年の抱負を記載して家族へ配布している。急変時には電話連絡により家族の不安解消に努めている。		
		○運営に関する家族等意見の反映	年1回の家族会や家族の訪問時を問題提起の場と捉え		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平日四の家族会、家族の訪問時を問題提起の場に加え意見や要望を徴集しており、家族からも要望や意見が出されている。家族からの意見等改善できる事は即時取り組み、家族へも対応方法を説明しており、家族の意見をサービス向上に活かしている。重要事項説明書に苦情相談窓口や苦情処置管理体制・手順を明記し、公的機関を掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は継続した職員でのケアの重要性を認識しているが、今年度は管理者の離職等があり新体制となっている。入職前から理念を含んだオリエンテーションを行い、入居者個々のプロフィールによりまずは入居者を覚えてもらうことからスタートとしている。管理者も入居者・家族との信頼関係作りに取り組み、家族の不安解消に勤務体制を変更しており、今では信頼関係が構築し、安心した生活が継続している。		

## 5. 人材の育成と支援

10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時法人マニュアルによる教育を徹底し、ホーム内では年間研修計画をたて毎月職員が輪番で講師となり研修を開催している。また、法人全体での定例会の中で、外部研修参加者が伝達講習を行ったり、緊急時対応等実践的な勉強会等レベルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、ブロック会議に参加し交流促進につなげ、事例検討会や勉強会等質の向上に取り組んでいる。管理者は連絡協議会を通じ人脈ができ、同法人内の2つのグループホームの特性を活かした勉強会や待機者交換(体験訪問等)、系列のデイサービスへ入居者が毎日遊びに行くことも職員の認知症ケア教育の一環や交流の機会としている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

		○馴染みながらのサービス利用			
--	--	----------------	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	26	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接の有料高齢者ホームの利用者は体験訪問や体験入居により職員や他の入居者と馴染みになりホームへ入居しているがこの1年入居者の入替わりは無く、帰宅願望に職員と一緒に自宅まで連れて帰り安心して、家族との電話で安心につながったり、家族が訪問されたりと家族の協力のもと不安を軽減するよう支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりに向き合い、共に生活する中で入居者のできる事を中心に協力しながら和やかな生活となっている。職員の寄り添いのケアや傾聴により昔のことを引出したり、生活の知恵を学び、餅つきでは昔のきねづかを発揮し生き生きとした表情が写真からも推察できる。職員と一緒に掃除をしたり、アクティビティ等と一緒にを行い喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントにより入居者個々の情報を把握し、職員に直接意思表示される入居者もいるが、意思表示が困難な入居者や明確でない場合は職員の観察による気づきからの察知や見守りの中で推察したり、家族との相談や職員で話し合い希望に副うよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新体制となり、入居者全員のアセスメントをやり直し、入居者の“今”に即したプランを作ろうと入居者のニーズや問題点に優先順位を付与し、検討表に全職員の意見を集め、現状に即したプランを作成している。介護計画を全員が立案できるように勉強会を実施し、カードックスを使いケアの統一に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全入居者の介護計画が再作成されており、毎日していることを介護計画に反映させ具体的な支援方法等個別的なプランを作成し、新人職員が入っても計画を見ながら支援できるようにしている。定期的には半年で見直し、急変時(入退院等)に見直すことにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の有料高齢者ホームと日常的な交流や系列のデイサービスに朝から入居者が遊びに出かける等法人が協力しながら入居者を支援している。法人全体での行事には家族や近隣の住民の参加等もあり、法人の“SOS介護”を緊急時に利用する等法人も持つ機能を多様に発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医として継続して受診している。認知症に関しては協力医院である認知症専門医の月2回往診等適切な医療を支援している。往診時ホームから日常生活を報告し、家族への説明や指導が行われており、三者が連携を図りながら入居者を支えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアへの方針を説明しているが実際にはターミナルケアの実例はない。今後、重度化やターミナルケアが必要な状態になった場合には家族や主治医等と連携を図りながら方向性を検討する意向であり、ターミナルケア説明書や依頼書・受託書と終末期ケア生活支援に関する実践同意書を整備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の性格や意向等情報を収集し個々の思いを尊重したケアに取組み、プライドを傷つけないよう耳元でのトイレ誘導や視線での会話、明るく対応する姿等からプライバシーが守られ入居者を敬う姿勢が窺われた。入職時守秘義務について同意書を受入れ、全職員参加の倫理や接遇の勉強会等を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いや体調に応じ強制することなく本人のペースに合わせ、起床就寝時間や入浴時間等希望によって支援している。夜中に目覚められ朝食が調理場となったり、居室での朝食もある。訪問時も昼食後居室で花を生ける入居者やテレビの前で寛がれる人等自分の時間を楽しんでいた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		○食事を楽しむことのできる支援	入居者は買物、同行したり野菜の虫かき等施設内で		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は買物へ同行したり野菜の皮むき等座位でできる事を一緒に行い、食後の茶わん拭き等に活躍されている。食事は静かに集中してもらいたいと静かな音楽を流し、管理者は時には入居者の横で弁当を広げ、会話で楽しんだり食事の進み具体を確認しているが、職員は見守りや食事介助を行い休憩時間が食事時間となっており弁当持参である。	○	職員の休憩時間が取れるように交代で別室での食事となっているが、まずは一緒に弁当を広げ入居者の反応を確認し、今後予測される咀嚼や嚥下状態の低下に向け休憩時間の取り方を検討されることを期待したい。また、家庭的という視点からも入居者と職員と一緒に同じものを食べる必要があるのではないかとと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能状態に準備しており、入浴前にバイタルチェックによる入浴可否を見極め、昼食後から夕食前までの時間で好きな時間に支援している。毎日入浴されたり、仲良し同士で楽しめることもある。入浴を嫌がる人にはチェック表を活用し、入浴を促し間隔が空かないように支援し、体調によっては足浴や全身清拭を行っている。入浴拒否が強かった入居者への対応は並々ならぬものがあつたようであり、今では喜んで入浴されおり、ケアの確かさが確認できた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
23	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し、入居者の個性やできることや趣味・特技を理解し、役割や出番の機会を作っている。居室で生け花を活けたり、生活リハの一環としてのモップがけ・洗濯物を干したり、調理への参加等職員と一緒に取り組まれている。行事担当職員は紙切りや塗り絵等様々なアクティビティを用意し、入居者の自信へ繋げている。系列のデイサービスに遊びに出かけ地域の方々との交流や法人行事への参加等気晴らしや楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣近所を散歩したり、食材等の買出しへの同行、ピクニック気分におにぎり持参で近くの公園へ出かける等入居者の希望や職員の声かけにより外出を支援している。中庭での外気浴も戸外への支援の一つになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践			



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	他の入居者が入ってこないようにと居室に内鍵をかける入居者もいるが、玄関に付けられているチャイムに敏感になったことや所在確認の徹底により閉めていたフェンスを開放にしている。地域住民との日常の交流により、見守り役としての協力体制が構築している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の自主避難訓練や警備会社からの火災装置器の定期点検、隣接住民2名と待機職員として契約し災害時に備えている。非常持出袋や非常食の用意や避難場所を確保している。今年度は防火管理者講習を受講しており、今後は消防署からの立会いのもと防災訓練を行う意向である。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、また毎月の体重測定・や血液検査結果により入居者の栄養状態を把握し、食事摂取量の低下した入居者には主食・副食を工夫することにより体調管理を行っている。水分は毎食事、10時・3時や入浴後等十分摂れるようコップを変更し、1日1, 200CC以上を目安に支援している。嚥下状態により食べやすく小さくカットしたり、体調に応じお粥等へ変更する等個別支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花を植え、リビングや廊下は広々としており車椅子利用者にも十分なゆとりである。地域の中にあるホームであり騒音も無く、リビングや居室から梅林や桜等室内にしながら花見が出来る環境である。季節毎に家具やソファの位置を変更し、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みに押入れ付の居室とフローリングにクロゼット付の和・洋の居室である。テレビや冷蔵庫・仏壇等が持ち込まれた部屋や畳に布団で座位での生活、衣類はホーム側が預かっている入居者等好きなように使ってもらいたいという意図が表れている居室である。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひまわり21 岱明
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県岱明町山下1037-3
記入者名 (管理者)	林 初美
記入日	平成 21 年 1 月 17 日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける様に職員全体で理念の大事さを理解、共有しケアに生かせるよう努力している	○	地域との連携強化を図る事を大切にし認知症高齢者の方が地域で活動しやすいように研修会や学習会を開催できるようにしたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を明示し、その理念に基づいて年間の個人目標を立て、意識的に業務に取り組むようにしている	○	スタッフ全員が理念の意味を認知しケアの室を深め、よりよいサービス提供が出来るように日々学習会や事例を通じた学習でスキルアップを図りたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域との関係を疎遠にならないように家族や本人の要望を聞きながら実践できるよう努めている	○	家族の思い、本人の暮らしの継続性を大事にしながら事業所の大切にしている思いを家族や地域の中で理解されるように努力したい
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出時、近所の方々との挨拶、声かけなど自然に行っている。近所の方から旬の野菜を頂いたりしている	○	気軽に立ち寄って頂き、行事に参加して頂いたり、お茶しながら会話を楽しんでもらえるよう良い関係を継続していきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加をしている。地域との交流を深める為、閲覧版や市政だよりの当番にも参加、実施している	○	今後も市や町の行事に参加し、地域の人との顔なじみの関係が継続できるよう努力したい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご近所からの認知症に関する、お尋ねや運営推進委員の方からの高齢者の対応のあり方や、制度の利用の仕方など質問に対してアドバイスしている	○	介護教室や認知症の勉強会を開催していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアのあり方を振り返る良い機会であり、自己評価もそれぞれスタッフにチェックしてもらい、学習の教材としている。評価後の指摘には学習会で話し合い、早期解決を目指している	○	外部評価に対しての取り組みが今後の事業運営にプラスになるよう学習し理解し活用し、自分たちが目指す理念の実現に向けて取り組みたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の生活状況やケアの実際を見て頂き、自然にホームの雰囲気を知って頂くように取り組んできた。外部評価の公用やホームでの取り組んでいる内容を説明しながら、意見要望等がある時は代表や管理者へ伝達し対応している	○	回を重ねる毎に充実している事が実感できている。ホーム運営にもっと参加、協力して頂けるよう委員の方や第三者の方から意見を頂きたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者の方と運営推進会議を通じ気軽に交流が出来、グループホームとしてサービス向上に対して協力して頂けると実感している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度学習の必要性を強く感じている。自己学習や研修参加を行い知識を深めたい	○	権利擁護の内容について把握できておらず、学習会、研修会に参加し理解していきたい。運営推進会議を活用し、市町村の担当者も参加されているので学習会を開催したい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームでは虐待0としているが、実際に虐待の実例を挙げ、実態を知りスタッフそれぞれが振り返って考え、虐待防止に努めている	○	誰もが虐待はダメと理解しているが、どのような状況で虐待をしてしまうのか、その時の精神状態はどのようなものか、身近な事例を通じた勉強会を行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に十分にホームの雰囲気や概要を理解してもらった上で入居の決定してもらっている。料金体制の変更や契約内容に変更があった際には家族会などを利用する事でお知らせするようにしている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時には職員が席を離れ本人と家族で話す時間を作り本人の思いを引き出してもらうようにしている。ケアプランの中で家族、ご利用者アンケートを作成しており、その中で出てきた意見や要望に対して解決できる部分は早急に解決していくようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回は家族面会の際にケアプランの説明を含め生活状況等の報告を行っている。また、利用者急変時にはその都度家族に連絡をいれて状況報告をしている</p>	<p>○ 家族への協力を今以上に依頼し利用者本人の安心にもなる事を理解してもらい、協力しながら本人の生活を支えていきたい</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族会に参加して頂く事でホームに対しての要望や意見を言って頂ける雰囲気が出来てきた。</p>	<p>○ どうしても家族の立場から利用者を預かってもらっているという意識が見えるので家族を巻き込んでケアに努めていきたい。家族はもっと希望を出して頂きたい。それが自分たちケアする側の勉強にもなるはずである</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>責任者会議を定期的で開催している。それ以外についても緊急案件などある場合には、その都度話し合いを行い円滑な運営を行う為に組織全体として職員の意見を取り入れながら取り組んでいる</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に応じて勤務時間を考慮しながら調整を行っている。夜間帯や職員が少ない時間帯についても待機職員を契約により配置する等急変時にも柔軟な対応が出来るように努めている</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同一法人内での異動はあるが他事業所との交流を日常的に行っている事で入居者と職員のなじみの関係が損なわれないように配慮しながら人事異動については慎重に行っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践者研修への参加や、その他認知症に関する研修会へ参加する機会を設けて頂いたり内部でも役割に応じた研修会や事例を通しての勉強会を行っている</p>	<p>○</p> <p>長期的、継続的に職員の現状での課題を把握しながら段階に応じたトレーニングを行っていき、ホーム内で良い人材を育成し長く勤めてもらえるように取り組んでいきたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に積極的に参加し他事業所との情報交換や意見交換を行ったり、職員同士での交流会を行う機会を設けて連携体制に取り組んでいる</p>	<p>○</p> <p>研修会の機会にも近隣にあるグループホームやサービス事業所との交流を図りスタッフ同士での意見交換やストレス発散の良いきっかけ作りが出来るように取り組んでいきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>当会全体での食事会や慰安会、また各部署での職場の話合いの場を開催しストレス軽減に努めている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的な勉強会開催はもとより、常に自身の自己研鑽に勤めることを推進しておりスタッフで介護書籍の購入や、その他自己学習に取り組んでいけるように促している。専門職としての自信に繋がるように資格取得のための勉強会を開催し、人間性の伴う資格の取得に努めている</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>環境の変化が本人に与えるダメージを理解し、不安なく過ごせるように職員全員が本人にしっかり関わる時間を持ち、早く慣れていただくように取り組んでいる</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の生活状況をしっかり把握する事に努め、今までのサービス状況から現サービスを利用するに至った経緯などを情報収集し本人に関わるすべての方と協力しながらケアが出来るように取り組んでいる</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見極めながら家族と本人の意向に沿うサービス提供が出来るように努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	混乱なく段階的にサービスに繋げていくように他のサービスとの組み合わせ等を検討しながら支援できるよう努力している	○	入居者のほとんどは入所当時帰宅願望があられ、家に帰りたいと言われていた。本人が本当に納得してサービスを開始できた事例を学びたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事や家事等日常生活全般において利用者と共に活動する事に努めており、その中で共に学びあったりする時間が日常的にある		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での活動で家族参加の機会を促して一緒に過ごす時間を提供できるように取り組んでいる		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を十分に尊重しながら自分たちの介入が良い家族関係の構築になるように、本人の思いを代弁したり家族の思いを本人に伝えたりしている	○	利用者や家族が双方にとって良い関係が保たれるように自分たちが居ると思う。良い関係が保たれる為に自分たちが利用者の代弁者となり家族に思いを伝えたり、家族からの思いを利用者に分かるように伝えていけるように考え自己研鑽していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着型サービスになり、ご利用者が住み慣れた地域で生活をされるようになった事でホームから近所に散歩に出かけたりすると、なじみの知り合いがおられ声を掛け合ったりされるので、関係を絶たないように今後も積極的に取り組んでいきたい		受診や散髪など今まで行っていた場所への訪問を継続して行くようにし、今まで築いてきた関係を絶たないように今後も取り組んでいきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者への更なる関係作りに努めた活動への参加や呼びかけを行い、その中で話し合いながら行えるように支援している	○	認知症の程度や身体状態の程度に関わらずに入居者同士が良い関係を築けるよう支援していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご利用者が入院された場合には、お見舞いに行き安否を気遣う取り組みを行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分自身で思いが表出できる入居者の方には生活の希望などを聞く機会を持つようになっている。訴えが困難な方には家族の方と相談したりミーティングの中で本人の生活の要望等を皆で話合って支援している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴を情報収集することはもちろんの事、本人との日頃の会話の中で聞き出して記録に残したり家族面会時に本人から聞き出せない生活歴などを教えてもらって、それをケアの中にかさねるように取り組んでいる		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人に応じた生活時間を大切にしていこうと努めており、毎日の生活の中では特別に決まったレクリエーション行事を入れないようにしており、日常活動の中でリハビリ的志向を持ってケアにあたっている	○	定期的なケアカンファレンス以外にも日々変化があった場合には、その都度評価を行い課題分析していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係機関との連携を図るようして本人の生活が充実するために、それぞれの立場からの思いや気付きをケアに反映させるように取り組んでいる	○	家族や本人も参加してのケアカンファレンスを実現させていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを実施しているが、まだ入居者に変化があった場合に緊急的なプラン変更に応じきれない場合がある。変化があった場合にはミニカンファレンスで話し合いながら検討したり家族への報告等を行う事で対応している		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアチェック表を設けて必要な情報を確実に記録に残し全職員が日々の本人の状態を確認した上でケアにあたれるように実施している	○	家族や本人にも見ていただけるような表現の仕方を行いスタッフだけでの記録理解にならないような取り組みを行い情報の共有化に努めていきたい
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームと併設の有料ホームと連携を取りながら入居者同士の交流を図ったりデイサービス事業所に訪問したりして協力体制をとっている	○	事業所間同士の隔たりを無くし、いつでも交流が出来るように入居者や職員の交流を図りながら、なじみの関係作りに努めていきたい
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を機に地域の民生委員の方々との交流も盛んに行えるようになり、入居者の方々と地域行事に参加したりホーム内での行事への参加やボランティア慰問が盛んになり、地域の交流と協力体制が出来つつある		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の福祉サービスを利用するまでは至っていないがケアマネジャーとの連携をとりながらケアのアドバイスを受けてりしている	○	地域にある福祉サービスやインフォーマルなサービスを利用しながら入居者が地域への社会参加が出来るように取り組んでいきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、地域包括支援センターとの連携は十分とはいえない。どちらかといえば岱明町の介護保険担当者が相談や協力にのって下さっている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が以前から主治医としていた病院を継続して主治医としてもらっており、本人の生活歴や病歴を継続して見ていただく様にしている。そのことで入居者本人も馴染みの主治医と会話も弾んだり安心して医療的経過を見せてもらえているようである	○	馴染みの主治医が24時間体制で往診可能かどうか今後ターミナルケアの必要性が出てきた場合には不安がある。その事を踏まえたうえで主治医の検討をしていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	主治医との連携を強化しスタッフはじめ家族の方や地域の方々に認知症高齢者の理解のための研修会を開催できるようになってきているが、もっと数を増やしたい
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後も生活全般において介護と看護を組み合わせながら入居者の健康管理に対して不安なく生活が送れるように支援していきたい
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	実際にターミナルケアに直面した事がなく、そのような状況になった場合に可能な限りホームでの看取りを実現させていきたい。スタッフにはそのための力量も必要で不安感もあるだろうが、入居者のターミナルケアを行うことで自分たちの介護技術の向上になればと思う
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>皆が集うホールでのトイレ誘導などの声かけは耳元で本人にだけ分かるように伝えたり、違う言葉かけで誘導して配慮しているが、入居者の中には気付く方もおられプライバシーへの配慮に難しさがある</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>どうしても、まだスタッフの中には自立支援の意味が理解できていないところもある。過剰介護にならないように待つ事、見守る事の重要性を理解して入居者の能力を引き出す関わりをしていきたい</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>本人の嗜好品があれば、その行為を尊重しながら継続した生活レベルを保てるようにしている。また、医療機関が必要な疾患を持たれている方については主治医と家族と相談したうえで、数量や頻度を調整し、本人の楽しみとしている事を大事に支援している</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関しては本人の羞恥心に配慮しながら自信喪失にならないよう誘導時の声かけの仕方や、誘導をさりげなく行うなど極力周囲の環境に注意しながら行っている。また、トイレで排泄する事の爽快感を大事にした支援として紙パンツの方にもトイレ誘導を行うなど、トイレでの排泄習慣を大事にしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	極力入居者の希望に添えるような入浴習慣を確立していきたいが、様々な時間での入浴希望時間に十分に対応できていない。基本的に昼食後～夕食前の時間で好きな時間に入浴できるように取り組んでいる		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調に応じて居室での休憩や、その他見守りの出来る範囲で休息していただいたりして、その時の入居者の状況に応じて柔軟に対応している		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で入居者一人一人の個別性、能力を把握しながら、その人の役割となる活動や作業習慣になるように仕掛けている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭管理を出来る方には個人で管理していただいております、そうでない方にはホーム側で預かって管理したり立て替えたりしている。外出行事には皆が買い物できるような機会を持ち、金銭能力が維持できるように努めている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの身体能力に応じて外出手段を選び全員が外出する機会を設けるようにしている	○	外出を希望されない家族の要望があり、理由としては施設に入所しているのを知られたくないからの事。理解を得るために家族と話し合っているが地域の理解も必要であると感じる
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に外出できるような機会を設けており、敬老会や餅つき大会などホーム内でのレクリエーション活動を開催し入居者とともに参加する機会を設け支援を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内には自由に使える公衆電話を設置しており入居者の方は話したいときに自由に使用できるようにしている。手紙に関しても字が書ける方は積極的に家族への近況報告などを手紙で書いていただいている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問は可能である。訪問時には家族と本人がゆっくと過ごす事が出来るように支援している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は基本的に施錠は行わない。認知症の強い方で他者の居室へ侵入される方がおられるが、その方の行動は規制できないので他入居者が自ら居室の施錠をされる事はある		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握している。特に外に出て行こうとされる方への所在確認はスタッフが連携を取りながら安全に生活できるように配慮を行っている		徘徊のある方がホームの外に出て行かれることがあり、車の通りがあるので安全を確保するためにゲートを取り付けた
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に入居者の状態を見極めた上で環境に対する配慮を行っている。刃物など注意が必要な物品に関してはスタッフが見守れるようにしたり、異食行為の危険性がある入居者には危険性のある物品を置かないようにしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防災訓練を実施したり勉強会の中で事故及びヒヤリハット報告を話し合ったりして、職員全員で事故防止への意識を高める取り組みをしている	○	リスクマネジメントの研修に参加し事故防止に対する日頃からの取り組みが大事である事を学んだので、それを職員に勉強会で伝達し意識を高めていくようにする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを整備して定期的に訓練を行っている	○ 緊急時の対応で経験のないスタッフは、いざという時にどのような対応をすればいいか戸惑うと思うので、日頃からシミュレーションを行い緊急時に迅速な対応が出来るように周知徹底を図っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成してスタッフがいつでも駆けつけるようにしている。また、緊急時の対応策として近所の方が待機職員として契約をされており、いつでも災害時には駆けつけてもらうようにしている	日頃の散歩の中で避難場所を意識づけておく(山下公民館)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に本人の状態報告を行い、起こり得るであろうリスクを説明しながら、その中で本人が安心した暮らしが出来るように対応策を話し合っている	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで体調管理に努めているが、いつもと容態が違うと感じたら、ささやかなことでも看護師に報告し重大になる前に、早期発見早期治療を心がけている	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については薬剤情報をもらい、スタッフが分かるように個人のファイルに閉じ込めている。病名と薬の効果、副作用など情報を理解したうえで服薬を処方している	○ スタッフ各自が入居者の疾患を十分に把握できておらず服薬の種類など理解したうえで服薬支援ができるようにしていきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便に関してなるべく薬を頼らず自然排便が出来るように普段の食事や水分摂取、運動を行うように心がけている	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけを行い口腔ケアを行っている。入居者によっては昼は磨かれない方がおられるが、朝・夕は確実に全員が口腔ケアを行っている。その際に口腔内の観察を実施	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて毎回どの程度の摂取量であったか確認出来るようにしている。食事量が少ないときには体調確認を行い、時間を置いて提供したり栄養価の高いもので代用したりしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成したり書籍を購入しスタッフで回覧している。普段の掃除の中で手すりやフローア、椅子など集団で使用する物品の拭き掃除を行って感染予防に努めている	○	常に手洗いや清掃に心がけるように定期的に感染症に対する勉強会を行っていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事衛生マニュアルを作成しており、台所に掲示している。また、台所や手洗い場などに全員が分かるようにイラストで手洗い方法などを掲示している。台所用品はハイターで定期的に消毒を実施		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ゲートを開放し出入りしやすいようにしている。プランターに花を植えたりして工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すための環境整備を大事にしている。季節の飾りや家具の配置、ホールから見える外の風景にも季節を感じさせるような工夫を行っている	○	共用空間は毎日掃除を行い汚れやすいトイレや流しなどは、その都度清掃を行い入居者が気持ちよく使用していただけのように今後も取り組んでいきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを数箇所配置している事で好きな場所で気の合う方同士過ごしていただいている。廊下にも椅子を設置しており、思い思いの場所で過ごせるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室には本人の馴染みの家具や写真を持ち込んでいただくように家族へ協力をお願いしている。仏壇を持ってこられたり各自自分の大切なものや馴染みの品物を持ち込んで生活されている	○	個人個人の特性に応じた居室環境にしていくために家族に対しての声かけを行い、居心地よく過ごしていただける居室にしていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設置し、室温や湿度、室内の環境整備は注意しながら出来るだけ外気と変わらないように配慮している		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーである。トイレや風呂場、廊下など必要な場所に手すりがあり、必要最低限生活に支障をきたさないような作りになっている。入居者の状態に関わらず、できるだけ制限がないよう、また自分で出来るような建物構造になっている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札を下げて自分の部屋と分かるようにしたり、トイレにも表札をしている。その他馴染んできている生活環境を、こちらの都合で変えないように十分に検討したうえで廊下やホールの家具の移動を行っている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭がありホールからすぐに出られるようにスロープを設置している。そこで洗濯干しや草花の手入れなど実施できるようにしている。天気がよく気候のいい日には外に出て皆で食事をしたり、お茶会をして季節感を肌で感じながら過ごしている	○	作り物の季節感ではなく季節ごとに変わり行く自然の景色を、その時々新鮮な内に見ていただけるように今後も取り組んでいきたい



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○ケアプランを中心にケアを行なって問題点を共有し、改善への取組みをすみやかに行なえるよう努力しています。

○ひまわり岱明の理念として（法人理念をふまえて）①家族として共に生活する ②家族としてのなかに専門性も忘れない の2点をモットーにしています。